

日本原子力学会 核燃料部会
令和4年度第三回運営小委員会議事録

日時：令和4年11月11日（金）13:30～15:30 於 WEB 会議(Webex)

出席者：加藤部会長，佐藤副部会長，尾形副部会長，宇田川委員，内川委員，小原委員，片山委員，川西委員，川本委員，樽松委員，黒崎委員，澤委員，園田委員，高田委員，鶴田委員，長嶺委員，松永委員，渡部委員，大谷（記）

議事

1. 前回議事録等の確認（資料1）

大谷から、前回（令和4年度第二回）運営小委員会議事録を紹介した。また、事前にメールにて確認済みである旨紹介し、了承された。

2. 令和4年度核燃料部会業務分担について（資料2）

大谷から、10月の委員交代、2月の運営小委での部会長、副部会長の互選について説明した。新委員となった、小原委員、鶴田委員よりご挨拶頂いた。

3. 令和4年度収支実績と令和5年度予算について（資料3）

大谷から、令和4年度の収支実績（上期）および令和5年度予算案について紹介した。

令和5年度の夏期セミナーについては、現地開催を予定しており、令和4年度予算策定時と同額で計上することとした。

4. 核燃料部会・部会賞（学会講演賞，奨励賞）について（資料4a,4b）

川西委員から、2022年秋の大会核燃料部会（学会講演賞）の選考結果が報告され、岡田氏、柴崎氏の2名を選定することが承認された。

また、第11回（2022年度）核燃料部会奨励賞の推薦募集の内容について承認された。

5. 企画小委員会の概要について（資料5）

佐藤副部会長から、10月12日に開催された企画小委員会について、2023年春の年会企画セッション、2023年度夏期セミナーの議論他について説明された。

6. 2023年春の年会での企画セッションについて（資料6）

佐藤副部会長から、企画セッションの検討状況が説明され、核燃料部会・計算機科学技術部会の合同セッションとして、核燃料開発におけるシミュレーション技術の活用について討論を中心とした内容を検討中である旨報告された。

各委員より、討論の前段の、前回内容の振り返り（レビュー）をどのような切り口で行うかがポイント、また、解析コードと材料科学のインターフェース

が討論で議論されると良いとの意見、さらに、ユーザー側からのニーズ等のインプットも議論の活性化に繋がるのではないかと意見があった。

7. 夏期セミナー（2022年度報告，2023年度予定）について（資料 7-1,7-2）

高田委員から、8月23日に実施した、2022年度夏期セミナー（Web開催）について報告された。62名（社会人52名、学生12名）の申込みがあり、六ヶ所再処理施設、1F廃炉作業、SMR国際動向等の講演で構成実施したとのこと。

片山委員から、2023年度夏期セミナーについての検討状況が報告された。現地開催（8月）として、核燃料基礎講座、施設見学を実施する方向で、年内目途で詳細決定していく旨説明があった。部会長より、3部会合同セミナーでは、会場は押さえつつ、宿泊は各人で確保頂く方法で実施しており参考になるのではとの助言を頂いた。

8. 核燃料部会報について（資料 8）

内川委員から、核燃料部会報 No.58-1（2022年12月発行予定）、No.58-2（2023年5～6月頃発行予定）の進捗について紹介され、引き続き原稿作成に協力していくこととした。

9. ATFワークショップの協賛について（資料 9）

川西委員から、12月21日に東京大学・JAEA合同で開催する第2回ATFワークショップへの核燃料部会の協賛（第1回に引き続き）について依頼があり、了承された。ATF開発は、短期・中期・長期で開発を進めており、ワークショップについても継続的な実施を考えている旨説明があった。

10. 部会等運営委員会からの連絡事項（資料 10）

尾形副部会長から、10月3日に開催された部会等運営委員会における議論の内、部会に関連する連絡事項について報告された。

11. 日本原子力学会誌特集記事の寄稿について（資料 11）

加藤部会長より、2023年5月号又は6月号の特集「1F事故を経てこれからなすべきことは何か、1F事故の何を次世代に伝えるか」への寄稿依頼についてご説明頂き、大学・研究機関の方に執筆を依頼する方向で進めることで、部会長・副部会長に一任することとなった。

12. その他

尾形副部会長より、2026年のWRFPMの開催に向けて、2023年2月～3月頃に幹事会を立ち上げ、産業界委員を中心に活動を進めていく旨報告された。

次回の運営小委員会は、令和5年2月27日（月）13時30分から、開催することとした。

以上